

子どもが少しずつ増えています

— 保育料無料の聖籠町を訪ねて

大 滝 浩 道

新潟市に接して、大規模火力発電所や新潟東工業港のある聖籠町では〇五年から保育料を無料にしています。県内の保育園では初めての試みです。聖籠町を訪ねてお話を聞きました。

一

聖籠町には〇才児から五才児までの保育を対象とする町立と私立の保育園がそれぞれひとつずつあります。またこれと並立して三才児から五才児までを対象とした町立こども園があります。こちらは認定子ども園ではなく幼稚園です。保護者の希望でどちらかを選択することができま。〇七年から町立子ども園の通常保育（午前八時半から午後三時まで）の保育料が無料に

なったので、三才になると全員が保育園からこども園に移るそうです。

二

無料になるまでは、三才児から五才児までのこども園の通常保育料は月額四千円でしたが、これが無料になりました。このために町から支出する金額は約二千万円程度になるとのことでした。

午前七時半から八時半までと、午後三時から七時までの延長保育を希望する場合は、延長時間によって月額五百円から二千五百円の保育料を支払います。現在、延長保育の児童は三千人程度とのことでした。延長保育で町から持ち出す費用は約九百万円だそうです。

またこども園は幼稚園のため夏休みがありますが、この場合も希望すれば一カ月四千円で保育を依頼できます。

三

町立こども園は町内の三学校区にそれぞれ一カ所ずつ設置されており、無料バスで送迎しています。

こども園の職員は正規職員が三人で、非正規職員が二人います。担任はすべて正規職員で、非正規職員が担当することはないそうです。したがって時間きざみで職員が入れ替わることもないとのことでした。

聖籠町のこのユニークな保育料無料の制度は、町の子育て支援事業の一環として実施されています。

保育料無料の目的について町は「通常保育料を無料として就園においての保護者の負担軽減を図る」とともに「早朝延長保育を行い保護者の子育て支援をする」とうたっています。

このほかの子育て支援事業としては、不登校等相談事業のための臨床心理士による相談室の開設、中学校への臨時教員（五人）の配置、各学校の図書館に図書館司書の配置、あるいは毎年中学生の海外研修のための費用として、一〇人を限度に補助を実施しています。

また医療費補助が〇六年から中学校卒業までに拡大されました。

そのほかにも健やか子育て誕生祝金として第三子まで五万円、第四子以降は十万円が支給されます。

四

〇四年から保育所運営費が一般財源化されて以降、保育料は他の市町村では高くなることはあっても安くなることはありません。特に保育料の無料化はいつものところは、県内では聖籠町だけで唯一実施しています。が、なぜ可能なのでしょう。

もちろん町長の見識にもよりますが、聖籠町は人口一万四千人の小さな町です。しかし町には新潟東港工業団地があり、ここからの一定の税収により地方交付税の不交付団体になっています。

平成の大合併の嵐が吹き荒れるなかで、聖籠町はどことも合併しないで自立の町づくりをすすめてきました。担当の方の話では、町以外の方から、保育料無料化についての電話での問い合わせが多くあるそうです。新潟市に近いこともあって少しずつ町の人口も増え、そのため子どもの数も増えているとのことでした。

（おおたき こうどう・所員）